

# 元気ファーム 3年の歩み

Footsteps of Genki farm



## そもそもの始まり…

豊田市旭地区で、耕作放棄地や農業の担い手不足などの問題を抱える伊熊宮農クラブと、農業や地域との関わりを通じて若手社員の育成を目指すMantoMan(株)がつながり、双方の課題解決を図ろうと「元気ファーム」事業の取組みました。そのきっかけは、何だったのか。MantoMan(株)の澤知明氏と、「元気ファーム」の指導をする後藤京一氏に、聞きました。

さわ ともあき  
**澤知明氏** MantoMan(株)



—元気ファームを導入したきっかけは？

リーマンショック以降、Man to Man(株)の社内には閉塞感が漂っていました。そんな時、海外進出のための赴任希望者を社内募集したのですが、若手社員は手を挙げませんでした。

受け身な姿勢が蔓延していることにショックを受け、人材開発の一環として34歳以下の社員が定期的にイベントや勉強会をする「若手会議」を1年くらいやっていたのですが、何か面白みに欠けると感じていました。

方向性を迷っていたところ、ちょうど取引先の社長が元気ファームの企画を提案しに来ました。「これだ」と導入を即決しました。

—人材開発の点から元気ファームが良いと思ったのはなぜ？

与えられた条件の中で、強制されずに自発的に企画し実行する。田畑を耕し、米や野菜を作る元気ファームでは、若手社員が育つプロセスを重視した取組ができると感じたからです。

普段の仕事では失敗すると上司にとがめられても、「元気ファーム」での失敗は自分自身で反省して次に活かせばいい。可能性のある事業だと感じました。

ごとう きょういち  
**後藤京一氏** 伊熊宮農クラブ



—伊熊宮農クラブが、Man to Man(株)の受け入れを決めた理由は？

伊熊町では30年くらい前から徐々に管理できなくなった田畑が増え、農地の荒廃が進んでいました。

どうにかしたいと思い、伊熊宮農クラブという町内で余力のある人が耕作を請け負い、地域で支え合って農地を維持していく仕組みを始めました。

最近は請け負う側も大変になってきて管理できなくなる農地が出てきました。

そういう農地を利用して、蘇らせることを含め、MantoManさんは、地域全体にも関わってもらえると聞いてお引き受けしました。



## 2015年度

### 初年度からイベント等企画し、よい滑り出し!1st

活動1年目。若手社員の研修と耕作放棄地での農業体験を通じた地域交流を、結び付けCSR活動を開始しました。農作業以外にも豊作祈願祭、収穫感謝祭などのイベントを開催し1年目として良いスタートとなりました。



人材開発部  
野田敏行

#### 第1回 7月30日(金)

- 工具の技術研修●安全衛生研修
- 土壌作り



#### 第2回 8月2日(日)

- ほ場づくり●は種



活動の拠点となる  
空き家を契約しました

#### 第3回 8月23日(日)

- にんじん畑の雑草抜き&草刈り
- 苗植え(白菜、キャベツ、ブロッコリー)
- ブルーベリー収穫



#### 第5回 9月27日(日)

- 間引き●草刈り



#### 第4回 9月5日(土)元気ファームスタートアップ

- おいでん・さんそんセンター/センター長講演●BBQ親睦●元気フラッグ作成



元気ファームの  
看板を皆で設置



#### 第6回 10月18日(日)

- 秋季八幡神社大祭●収穫(こんにやくいも&さつまいも)●こんにやくいも作り



#### 第8回 12月6日(日)

- 収穫●梅の剪定



#### 第7回 11月14日(土)収穫感謝祭

- 野菜収穫●ぼたもち作り体験●料理づくりスープ3種

